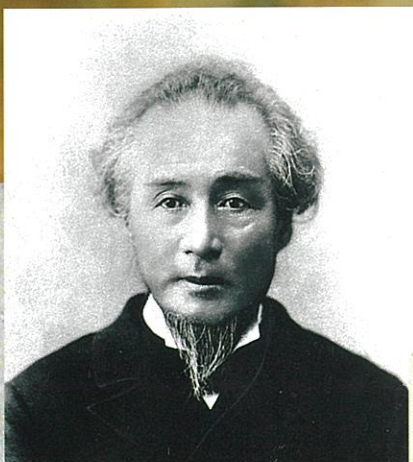
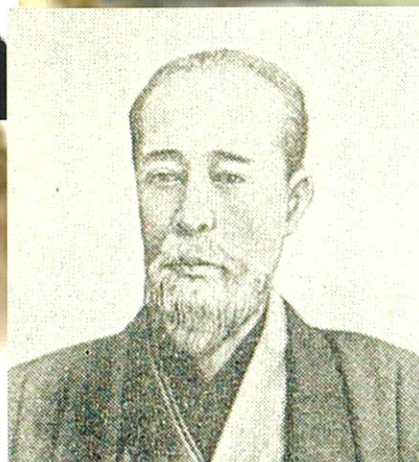


山岡鉄舟



勝海舟

高橋泥舟



第38期特別記念展

幕末三舟 展

令和7年12月5日(金)～8年3月31日(火)

年末年始休み:12月15日～1月5日

小原道城書道美術館

札幌市中央区北2条西2丁目 札幌2・2ビル2階

入館料:300円(大学生以下無料) 休館日:月曜日



幕末の三舟とは、勝海舟^{かつかいしゅう}、高橋泥舟^{たかはしでいしゅう}、山岡鉄舟^{やまおかてつしゅう}の総称である。

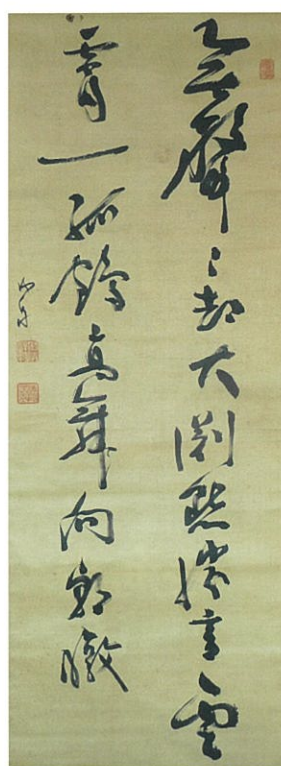
幕末維新の変革・動乱の時期、新政府軍による幕府打倒方針は、国を二分する内戦の危機を孕んでいた。国内の分断と多大な犠牲、そして外国による介入や植民地化の危険性も想定されるものであった。

三舟は幕臣であったが、新政府軍への恭順、江戸城の無血開城、江戸市民の安全確保など、その立場を超えて大局を見据え、平和裏の政權交替と近代国家の建設に向け、時代を牽引した。

しかし、その代償は、徳川家臣など武士階級の没落・窮迫による社会的変動など、近代化への苦渋も免れなかった。

三舟は、それぞれ武道をベースとした独自の個性を持ち、海舟は剣と禅で鍛錬した精神性に加え、近代国家を必然とする大局観を有する理智の人、泥舟は槍での鍛錬を基礎に、徳川の遺臣として旧主と進退を共にし、野にあって洒脱と隠逸を楽しむ気節の人、鉄舟は剣と禅で鍛錬した剛直な精神と至誠の熱情を持つ情の人、と評されている。

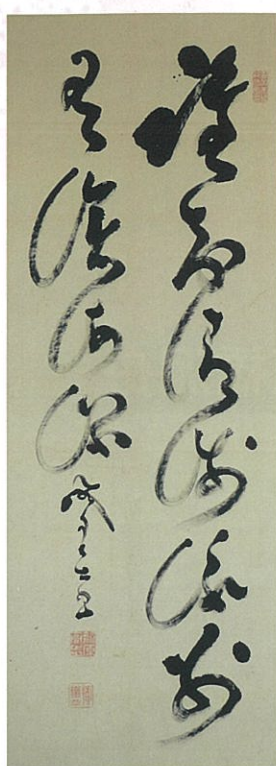
そして、三者はまた、独自の個性に応じた独特の書の表現者でもあった。本展では、三舟の書作品三十八点を展覧し、それぞれの強烈な個性と各々の波瀾の生き方を振り返る。



勝海舟
「無聲々却大…」



高橋泥舟
「煮茶静坐對南山」



山岡鉄舟
「誰知清淺流…」

こはらどうじょう 小原道城書道美術館

〒060-0002

札幌市中央区北2条西2丁目41

札幌2・2ビル2階

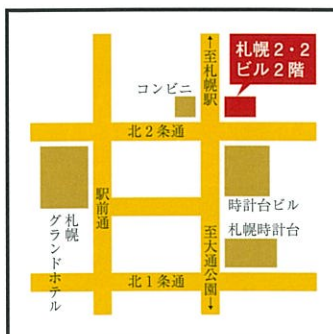
お問い合わせ先：011-552-2100

入館料：300円（大学生以下無料）

開館：午前10時～午後5時

休館：毎週月曜日

交通：JR札幌駅より徒歩5分、
地下鉄さっぽろ駅・大通駅より各徒歩5分

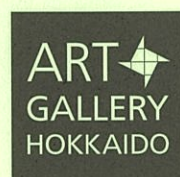


小原道城書道美術館 第38期特別記念展

会期 令和7年12月5日(金)

～ 8年3月31日(火) ～

休館日…毎週月曜日、年末年始(12月15日～1月5日)



アートギャラリー北海道

幕末三舟展

幕末の三舟とは、かつかいしゅう勝海舟、たかはしでいしゅう高橋泥舟、やまおかくてししゅう山岡鉄舟の総称です。

幕末維新の変革・動乱の時期、新政府軍による幕府打倒方針は、国を二分する内戦の危機を孕んでいました。国内の分断と多大な犠牲、そして外国による介入や植民地化の危険性も想定されるものでした。

三舟は幕臣でしたが、新政府軍への恭順、江戸城の無血開城、江戸市民の安全確保など、その立場を超えて大局を見据え、平和裏の政権交替と近代国家の建設に向け、時代を牽引しました。

しかし、その代償は、徳川家臣など武士階級の没落・窮迫による社会的変動など、近代化への苦渋も免れませんでした。

三舟は、それぞれ武道をベースとした独自の個性を持ち、海舟は剣と禅で鍛錬した精神性に加え、近代国家を必然とする大局観を有する理智の人、泥舟は槍での鍛錬を基礎に、徳川の遺臣として旧主と進退を共にし、野にあって洒脱と隠逸を楽しむ気節の人、鉄舟は剣と禅で鍛錬した剛直な精神と至誠の熱情を持つ情の人、と評されています。

そして、三者はまた、独自の個性に応じた独特の書の表現者でもありました。

本展では、三舟の書作品三十八点を展覧し、それぞれの強烈な個性と各々の波瀾の生き方を振り返ります。

■小原道城書画展

画は、幽邃な趣を湛える山水画、鮮麗な牡丹の花が見事です。

書は、金文・篆書・行草とバラエティに富んでいます。

■中国拓本展

前漢の「ろうこうくせき魯孝王刻石」、後漢の「ようわいひょうき楊淮表記」、北魏の「こうていひ高貞碑」・「ちやうもうりゆうひ張猛龍碑」・「ていちょうゆうどうぞう鄭長猷造像記」など六点を展覧します。隸書から楷書へと移り変わる頃の貴重な拓本で、漢字の書体変化の面白さを感じ取ることができます。

◆幕末三舟 展◆(第一・二・四室)

(第一室)

- | | | |
|----|-----------------|------------|
| 1 | 勝海舟 1 | 義膽 |
| 2 | 會心處不必在遠 | |
| 3 | 莫道野人無外事 | 開田鑿井白雲中 |
| 4 | 死生歸有命 | 榮悴出無心 |
| 5 | 戶庭無塵雜 | 虛室有餘閒 |
| 6 | ①荊棘未凋霜… ②昔賢貴儉素… | |
| 7 | 無聲々却大 | 淵默勝言 雲霄一孤鶴 |
| 8 | 東叡山頭春色新 | 聳雲雄閣已化新 |
| 9 | 憶昨難危際 | 猷謀都自然 |
| 10 | 古人骨作塵 | 豈知文物新 |
| 11 | 難支大廈倒 | 長哭空歔歔 |
| 12 | 身閑可以養氣 | 心閑可以養神 |

(第二室)

- | | | |
|----|--------|---------|
| 13 | 高橋泥舟 1 | 花影一庭月 |
| 14 | 2 | 春慵 |
| 15 | 3 | 一張沒絃琴 |
| 16 | 4 | 潦水盡而寒潭清 |
| 17 | 5 | 盡日湖亭臥 |
| 18 | 6 | 長堤翠柳帶春暉 |

(シヨウインドウ内)

- | | | |
|----|--------|-------|
| 19 | 山岡鉄舟 1 | 雍容美少年 |
| 20 | 高橋泥舟 7 | 萬重山色秀 |



(作品寸法…縦×横、単位cm)

(扁額 28×61)

(五者合作 13×52)

(141×57)

(133×32)

(双幅 各143×50)

(146×55)

(134×62)

(142×50)

(124×26)

(128×40)

(95×33)

(十三者合作 124×57)

(扁額 34×64)

(134×33)

(149×51)

(136×66)

(137×57)

(六曲屏風右隻 139×54×6)

(118×41)

21 8 天地不能藏大雨 鬼神無處避幽明
22 9 也知性癖難趨俗 却喜身閒不屬人

(第四室)

23 高橋泥舟 10 月とのミ人はいへともむしの音ぞ…

24 煮茶靜坐對南山

25 八己芙蓉帶紫烟 三峰彩盈夕陽天 輕節暫對千秋色…

26 山岡鉄舟 2 士者氣節爲貴 無氣節則不足稱

27 3 得水能仙天與奇 寒香寂寞動氷肌
28 4 玩世獨遊塵境外 忘機自覺物情齊

29 5 委懷在琴書

30 6 修之身其德乃眞

31 7 推蓬皆是畫 移櫂總堪詩

32 8 ①誰知天下士只 ②在布衣中

33 9 ①德如海 ②壽似山

34 10 ①松陰一架半弓苔… ②誰知清淺流 別有蒼海深

35 11 佛說摩訶般若波羅蜜多心經…

36 12 錢あればあるにまかせてほしく成…

37 13 百事明意是爲寶珠

38 14 お前百まで私しゃ九十九まで…

◆小原道城書画展◆(第三室)

39 小原道城 1・画 1 雲高氣靜

40 2・画 2 南去北來人自老 夕陽長送釣船歸

41 3・画 3 瑞氣滿牡丹

42 4・書 1 蕃衍

43 5・書 2 故叙之曰開士懷素僧中之英…

44 6・書 3 龍虎

(139×62)
(短冊 36×6)

(23×29)
(137×34)
(23×48)

(146×58)
(135×50)

(三者合作
(扁額 31×137)
(138×31)
(133×57)
(138×32)
(136×46)
(135×62)
(132×62)
(114×27)
(118×31)

(合作二曲屏風 各139×51)

(95×178)
(96×55)
(135×69)
(137×34)
(136×69)

(143×68)

45 小原道城 7・書 4 餽蘇春浩蕩
46 8・書 5 喝搖

◆中国拓本展◆(第三室)

拓本 1 後漢・楊淮表記

故司隸校尉楊君厥諱淮字伯邳舉孝廉…

(198×64)

拓本 2 北魏・高貞碑

魏故營州刺史懿侯高君之碑…

(229×101)

拓本 3 北魏・張猛龍碑

魏魯郡太守張府君清頌之碑…

(203×92)

拓本 4 前漢・魯孝王刻石

五鳳二年魯卅四年六月四日成

(25×25)

拓本 5 北魏・鄭長猷造像記

前南陽太守護軍長史雲陽伯鄭長猷…

(95×69)

拓本 6 漢代・画像石二点

① 仮「宴飲起舞」、② 仮「駢馬車列」

(各54×69)

◆中国古硯展◆(第四室ショーケース内)

硯 1 端溪石の種類、硯 2 端溪硯「緑端」蓮紋、

硯 3 山東珍虫化石硯、硯 4 端溪硯「緑端」魚紋、

硯 5 端溪硯「老坑」、硯 6 端溪硯「老坑」(魚腦凍)、

硯 7 宋坑硯 蘭亭硯、硯 8 澄泥硯 蘭亭硯、硯 9 陶硯、

硯 10 古端溪茄子珍玩硯、硯 11 翡翠碧玉硯、硯 12 円形石硯・動物絵硯石、硯 13 新端溪「老

坑」太史硯、硯 14 歙州硯(古硯)、硯 15 端溪硯「麻子坑」、硯 16 端溪硯「老坑」硯板

小原道城書道美術館

〒060-0002 北海道札幌市中央区北2条西2丁目41番地 札幌2・2ビル2階

お問い合わせ先＝日本書道評論社 (TEL 011-552-2100)

[入館料] 300円(大学生以下無料)

[開館時間] 午前10時～午後5時

[休館日] 毎週月曜日・年末年始・お盆休み・作品の展示替えの期間

[交通] JR札幌駅より徒歩5分、地下鉄さっぽろ駅・地下鉄大通駅より徒歩5分

協賛／日本書道評論社・(株)日成堂